

タイムラインの位置づけ等に関する情報提供

平成30年2月26日
荒川下流域を対象としたタイムライン(事前防災行動計画)専門部会
ブロック検討会

1. 荒川下流タイムライン（拡大試行版）の位置づけ

荒川下流タイムライン（拡大試行版）の運用

- ・荒川下流タイムライン（拡大試行版）の運用は、以下の①から③とする。
 - ①日本への接近が見込まれる台風に対するタイムラインの適用とその伝達
 - ②タイムライン上のレベル（及び目安の時刻）の設定とその伝達
 - ③各参画機関による防災行動項目を実施するか否かの判断とその共有

①. タイムラインの適用

- ・日本への接近が見込まれる台風を確認後、東京管区气象台と荒川下流河川事務所が協議し、荒川下流タイムライン（拡大試行版）を適用するか否かを決定し、適用の有無、適用開始時のタイムライン上のレベル（及び目安の時刻）等を参画機関にメールにて伝達する。

②. タイムライン上のレベル（及び目安の時刻）の設定

- ・台風的位置、降雨の状況、水位の状況等から、東京管区气象台と荒川下流河川事務所が協議し、荒川下流タイムライン（拡大試行版）に照らしてどのレベルにあたるかを検討し、タイムライン上のレベル（及び目安の時刻）を設定し、参画機関にメールにて伝達する。

③. 防災行動項目を実施するか否かの判断

- ・各防災行動項目を実施するか否かの判断は、その都度、台風、降雨、河川の状況等を踏まえ、各参画機関が責任を持って判断する。
- ・各参画機関は、防災行動項目の実施状況（取り組んだこと、見送ったこと）を共有する。
 - 各参加機関の運用結果等を踏まえ、後日、ふり返り、見直しを行うこと等により、荒川下流タイムライン（拡大試行版）の見直し、充実・改善や更なる拡大・深化を図ることとしている

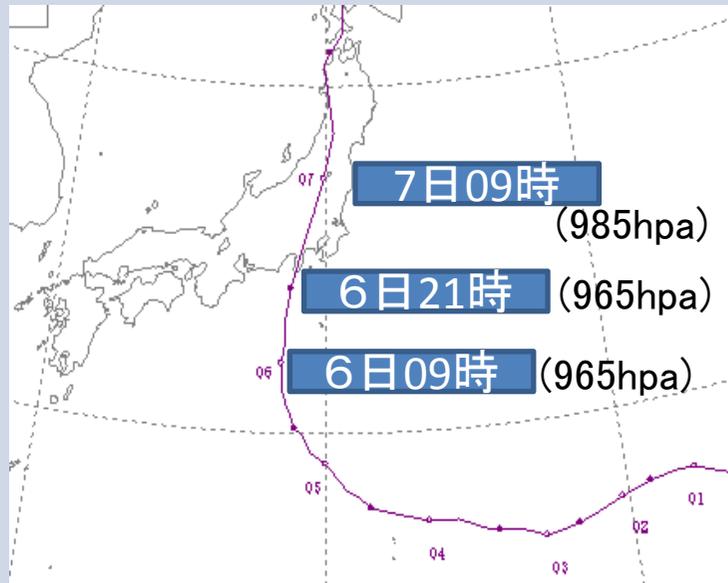
参画機関に提供される情報

- ・東京管区气象台の防災行動項目の一つである「接近する台風の予報及び荒川下流域への影響等の情報提供」や荒川下流河川事務所の防災行動項目の一つである「水位予測・河川管理施設の稼働状況等の情報伝達」は、参画機関に共有される情報である。
- ・参画機関は、共有される情報の性格を理解し、防災行動項目を実施するか否かについての自らの判断に役立てるとともに、自らの防災行動項目の実施状況を参画機関の間で共有する。

2. 荒川下流タイムラインで想定する気象・水位・雨量概要

台風の進路・規模

平成19年9月 台風第9号実績



最大風速

平成19年9月 台風第9号実績

- ・東京：14.9m/s
【最大瞬間風速：29.0m/s】
- ・江戸川臨海：25.0m/s
- ・さいたま：11.0m/s



何かにつかまってい
ないと立ってい
られないような非常
に強い風

風速20～30m/sのイメージ

降雨

洪水浸水想定区域図(想定最大規模)
の対象とする雨

- ・流域平均3日雨量：632mm
(降雨の確率規模：想定最大規模)
- ・平成19年9月台風第9号時の降水量
を約2倍に引伸ばした雨

水位

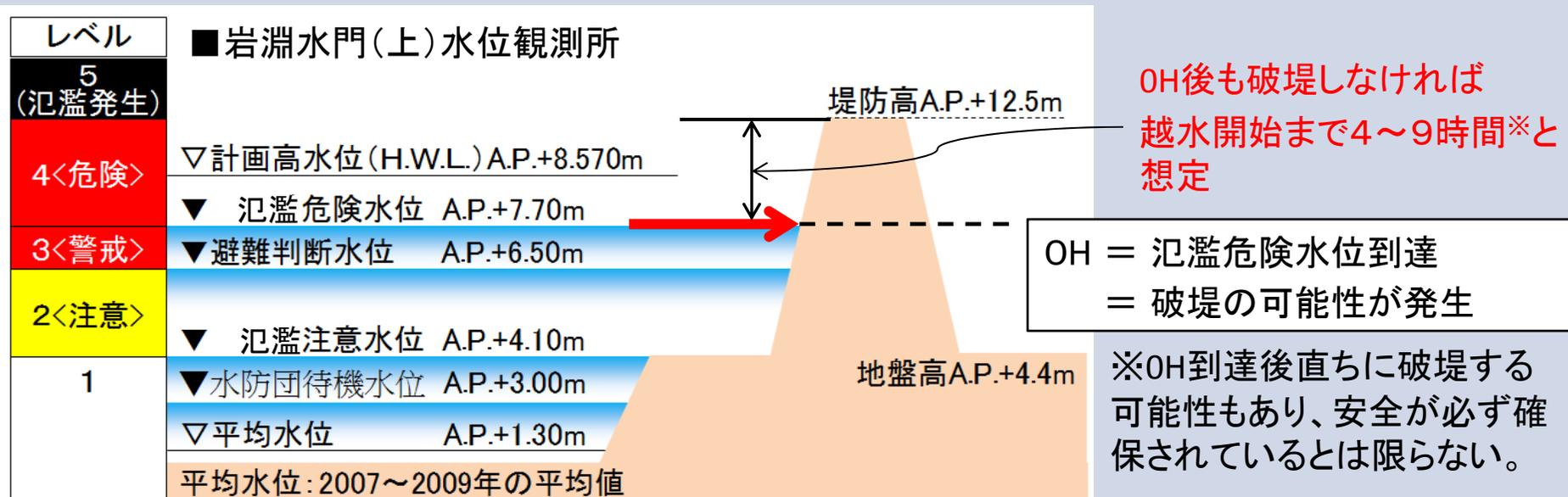
想定雨量を現在の河川の状況で計算
した水位

- ・熊谷：最大 AP+6.9m
- ・治水橋：最大 AP+14.8m
- ・岩淵水門(上)：最大AP+10.6m

3. 荒川下流タイムラインで設定するOH

OHの設定

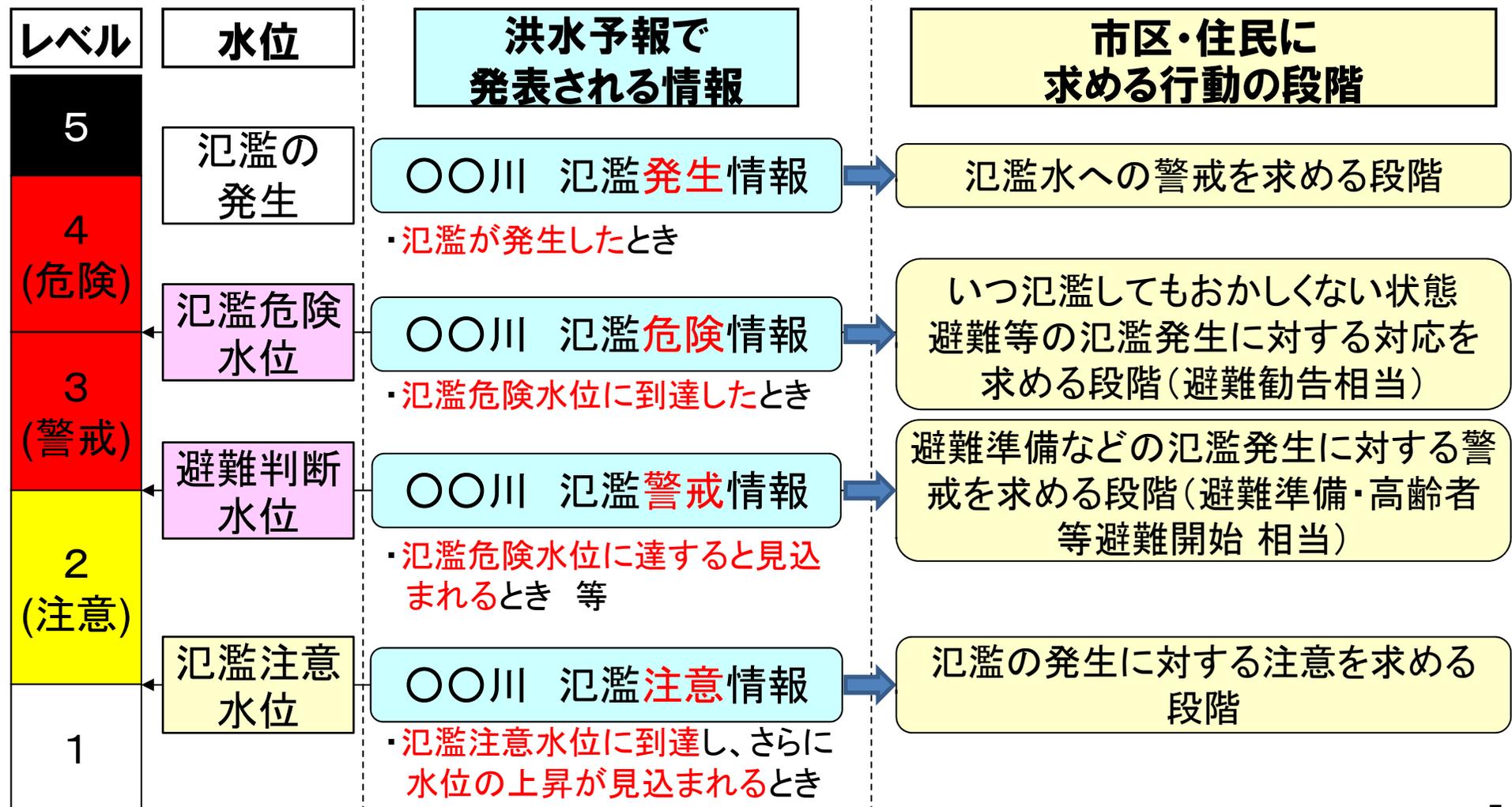
- 国や都道府県では、洪水時において、予め定められた水位観測所における水位の情報を提供している
- この予め定められた水位観測所を「基準水位観測所」という
- 基準水位観測所毎に、災害発生の危険度に応じた基準水位を設定
- 荒川下流タイムラインでは、**岩淵水門(上)水位観測所で氾濫危険水位に到達した場合をOH(破堤の可能性が発生)**に設定
- 各市区で浸水想定状況が異なることから判断によっては、OH以降も防災行動実施の猶予があることになる(特に洪水到達の遅い文京・中央・港区エリアなど)



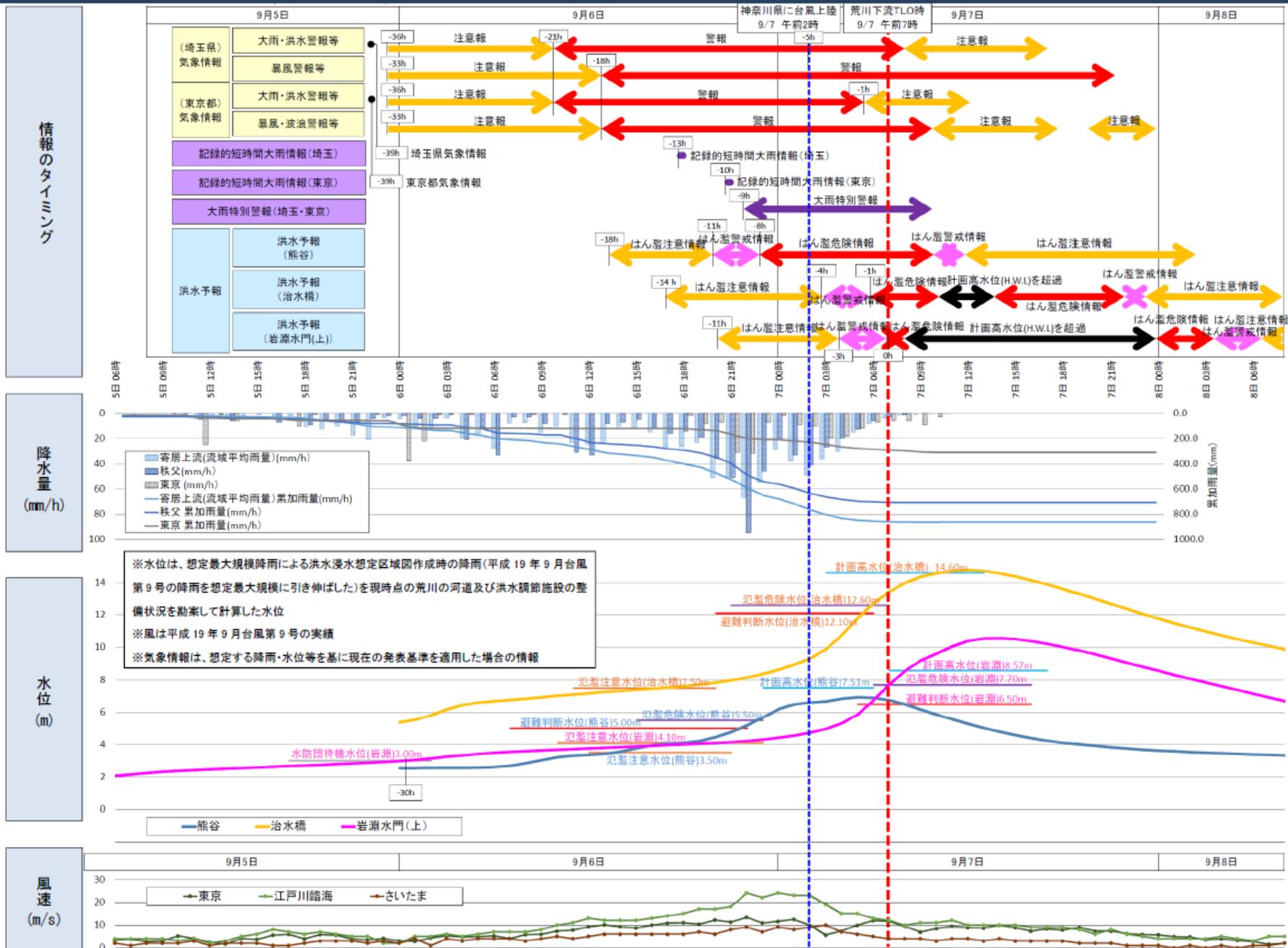
計画高水位(H.W.L): 堤防や護岸などの設計の基本となる水位。この水位を上回る超過洪水では、堤防が危険な状態になる
 氾濫危険水位 : いつ氾濫してもおかしくない状態。荒川下流の場合、どこかの地点が計画高水位に到達した状況

(参考資料) 荒川下流タイムラインで設定するOH

洪水予報河川では、洪水の予報を行っており、発表する情報としては、「氾濫**注意**情報」、「氾濫**警戒**情報」、「氾濫**危険**情報」、「氾濫**発生**情報」の4つがあります。



4. タイムラインで想定する気象・水位・雨量等まとめ



5. 荒川下流タイムラインで想定する被害の概要

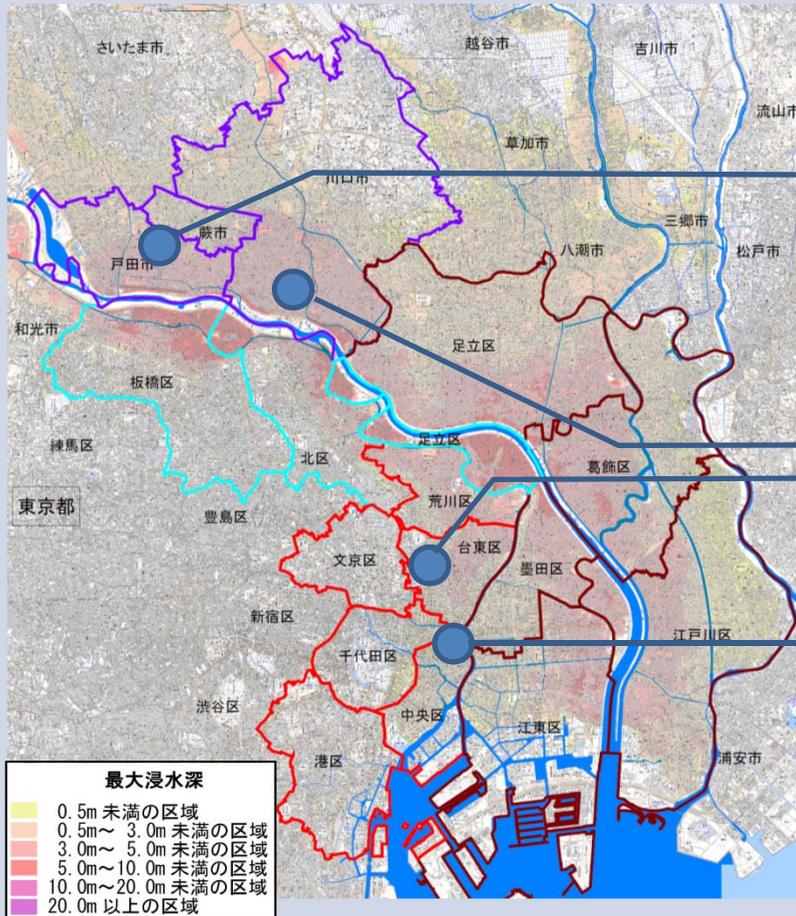
浸水想定

- ・想定最大規模降雨に伴う洪水浸水想定区域図
- ・洪水浸水想定区域内の3市13区における被害

浸水想定区域：約2万4千ha

浸水想定区域内の人口：約364万人

〈浸水イメージ〉



5. 荒川下流タイムラインで想定する被害の概要

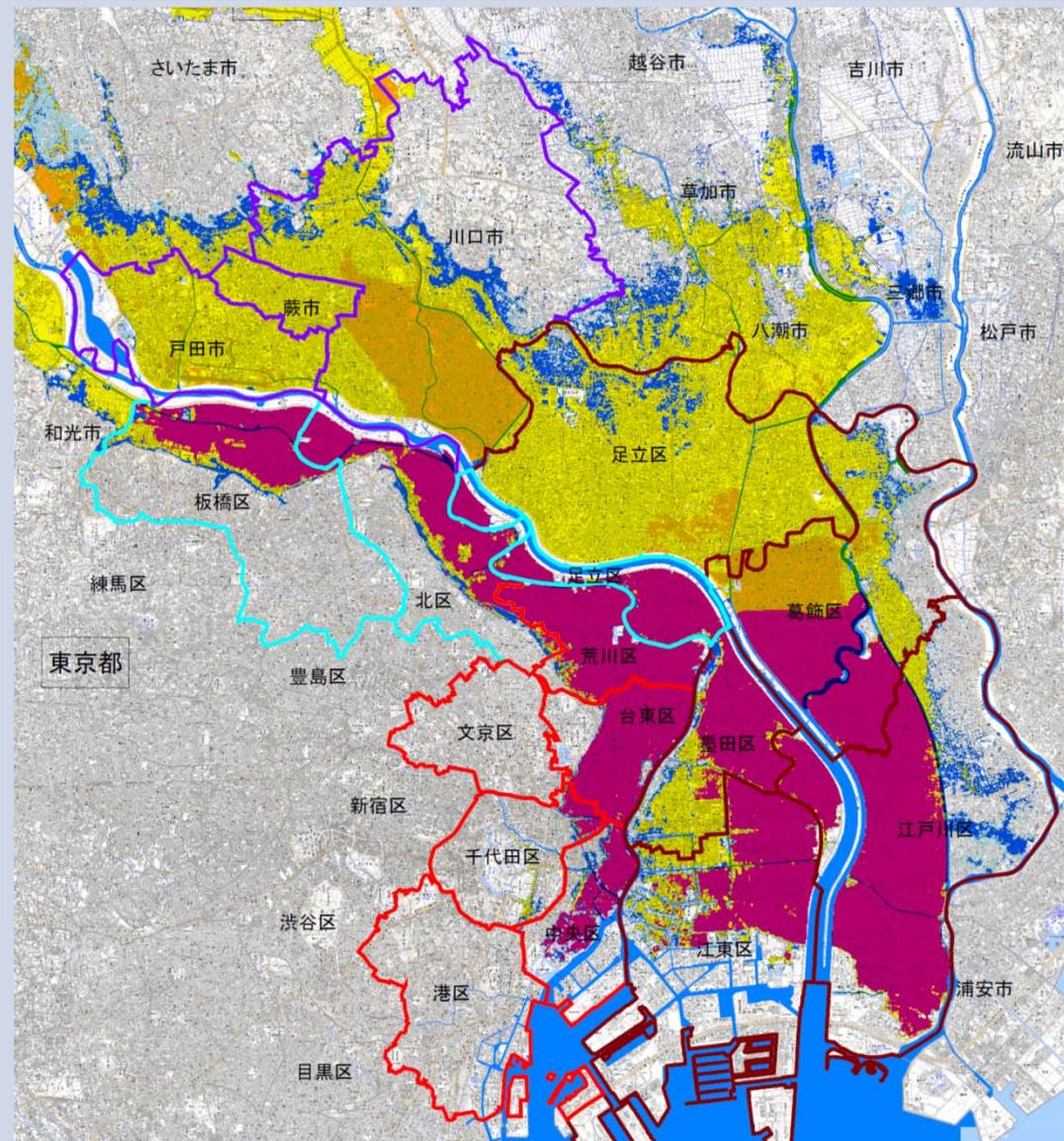
浸水継続時間

- ・浸水継続時間が2週間以上の地域が広範囲にわたる

浸水継続時間(浸水深 0.5m 以上)

- 12 時間未満の区域
- 12 時間～1 日未満の区域
- 1 日～3 日未満の区域
- 3 日～1 週間未満の区域
- 1 週間～2 週間未満の区域
- 2 週間以上の区域

※排水については破堤48時間後に排水機場、樋門操作等により実施するが、排水機場などは燃料供給ができないことにより、順次停止する想定



5. 荒川下流タイムラインで想定する被害の概要

浸水開始時間

- 多くの本川沿川市区で、浸水到達時間が30分未満の地域が広域に広がる
- 一方で、非沿川エリアでは、洪水到達が12時間以上となる区域も存在する

